

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的
 ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
 ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
 ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
 ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
 ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

■2面 女性ニュース ■3面 「平和の波」行動/国際会議宣言 ■4・5面 女性のつどい/女性平和基金交流会/女性働く ■6面 食事情/私のまちですすむ大軍拡/時事・クローズアップ ■7面 読者/まんが/乱楽パズル/母の歴史



大阪・富田林市 若葉萌64

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

岐路に立つ世界

被爆80年・原水爆禁止2025年世界大会 8月3日～9日

戦争も核兵器もなくそう



新婦人の次世代がステージいっぱい並んだ(6日 ヒロシマデー集会で)

被爆者と私たちの運動で

戦後・被爆80年、世界が戦争か平和かの岐路に立ち、核兵器使用の危機がかつてなく高まるなか、原水爆禁止2025年世界大会が8月3日から9日まで広島・長崎で開かれ、のべ1万2930人(オンライン参加含む)が参加しました。大会には、核兵器禁止条約を推進する政府の代表や各国の反核平和運動の代表など、16カ国づつ3人が海外から参加し、熱い討論と交流が繰り広げられ、世界の運動と各国政府の共同をつよめ、逆流を乗り越え核兵器廃絶へと決意と希望にみちた大会となりました。(2・3・4・5面)

被爆者の証言を力に

今年の大会は、広島でも長崎でも被爆80年の特別プログラムとして、被爆証言や被爆者運動の歴史が語られました。

「17歳頃から貧血でよく倒れ、20代後半には歯がぼろぼろ抜けて…。あの口爆風によってふくらみはぎに入り込んだガラス片が、いま足の裏にきて毎日痛みます」

「新婦人の被爆体験集『木の葉のように焼かれて』に出会い、聞き書きや証言をするようになりました。世界のどの国の人にも同じ苦しみを味わせたくない。ふたたび被爆者をつくるな」と力をこめました。

被爆者から



矢野美耶古さん 94歳
 広島・爆心地から4キロで被爆
 あの日刺さったガラス片
 今も続く痛み
 誰にも 味わわせたくない



本谷量治さん 97歳
 広島・爆心地から2キロで被爆
 91歳から証言
 受けた傷は今も消えない
 原爆の惨禍知らせなくては



パク・ジョンスンさん 90歳
 広島で被爆、翌年朝鮮へ
 2度の戦争に苦しむ
 韓国の原爆被害者へ
 謝罪と賠償を



田中熙巳さん 94歳
 長崎・爆心地から3キロで被爆
 私たちが叫び続けた
 「核兵器なくす」運動に
 結集を

女性のつどい(4・5面)



「核兵器なくす」運動に結集してほしい」と訴えました。 <2面>

主な日程	
3・4日	国際会議
4日	広島をつどい-被爆体験の継承と未来
5日	核兵器なくそう女性のつどい2025inヒロシマ
5・6日	世界大会-広島
6日	ヒロシマデー集会
7日	長崎をつどい-被爆体験の継承と未来
8・9日	世界大会-長崎
9日	ナガサキデー集会

